翔たけ

題字　小笠原　孝

第33号
令和7年11月1日
発行
一般財団法人
小笠原アカデミー
教育振興財団
理事長
小笠原　勇人

〈事務局〉
〒040-0061
函館市海岸町9-18
TEL 0138-84-5396
FAX 0138-84-5397



地方創生～「選ばれるまち・函館」を目指して

函館市　副市長　佐藤　聖智子

地方創生については、話題となることが少ないので、この貴重な機会を生かしテーマとして取り上げることにしました。

地方創生は、多義的ではありますが、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的とした国家戦略です。国の政策として掲げられてから十年が経ち、これまでの取り組みの反省を踏まえ、本年六月に「地方創生2.0」基本構想が閣議決定されました。

「2.0」では地域の働き方・職場改革を起点とした社会変革を掲げ、若者や女性にも選らばれる地方づくりが政策パッケージの一つとして示されています。

進学や就職などを機に東京圏へ転出する若者のうち、特に女性については、希望する進学先や就職先が少ないことに加え、地元における閉鎖的な人間関係や干渉から距離をとりたいという意識などから、一度東京圏に出ると地元に戻らない傾向が顕著です。また「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識が都会に比べ地方の方が根強く存在していることも、心理的障壁になっているものと考えられています。

ジェンダーギャップ解消は、倫理や人権の観点からのみならず、生産年齢人口が減少する中、性別にかかわりなく均しく能力を発揮し、多様な価値をもった人が活きと働ける職場環境が生産性と効率の向上やイノベーション創出につながり、経済の観点からもメリットをもたらすものです。

こうしたことから、本市では本年五月から市長をリーダーとしたジェンダーギャップ解消プロジェクトを始動、七月にはジェンダー平等推進アドバイザーを委嘱し、企業向けセミナーを開催しました。今後は経済界の皆様と連携しながら、働きやすく成長できる職場環境を整備するワークイノベーションを推進していきます。

また、様々な方に選ばれるまち・函館を目指して、子育て・教育や医療・福祉、生活環境整備など各般の施策に取り組んでいますが、特に良質な雇用を含めた「しごと」を創出するため、企業誘致、地元企業の活性化、スタートアップ支援など経済活性化施策と相まって取り組みを進めていきます。

さらに、地域づくりの担い手となることが期待される「定住人口でもなく、また観光に来た交流人口でもない、地域と多様に関わる人々」である関係人口を増やす取り組みも重要です。例えば、首都圏企業を対象とした地域創生についての社員研修やサテライトオフィスを用いた二地域居住など、官民連携により関係人口を創出し、「人材の共有」が期待できるものと考えます。

地方創生は行政のみならず、企業や市民の連携・協力が不可欠です。友人・知人への来訪勧誘や特産品の積極的な購入、地域活動への参加、ＳＮＳでの魅力発信など個人の行動は地方創生の大きな力となり得るものです。

これからも、安心して暮らし、働き、子どもを産み育てることができる函館を目指し、市民の皆様と力を合わせ地方創生に向けた取り組みを進めていきますので、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

結びに、一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団ならびに関係者の皆様におかれましては、今後も青少年の健全育成をはじめ、市政全般にご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



令和7年度　書籍・書架一式贈呈式　9月24日　大森浜小学校に於いて



＜小笠原勇人理事長より、各校代表に目録の贈呈を行った。＞

各学校長より、お礼の言葉と図書の活用など話される。



小笠原勇人理事長　より
目録を受ける大森浜小の
岡嶋心玲　さん



木古内中学校　長谷川美栄子校長
大野中学校　畑　大輔校長
駒場小学校　石川朋実校長
大森浜小学校　田中佳丈校長



函館市教育委員会
藤井壽夫　教育長



木古内町教育委員会
西山啓二　教育長



北斗市教育委員会
川原弘成　教育長



北海道教育庁渡島教育局
長居成好　局長

♡♡♡　お礼のお手紙　♡♡♡

函館市立大森浜小学校　図書委員会代表
6年・岡嶋心玲

小笠原アカデミー教育振興財団のみなさん、このたびは、たくさんの本を寄贈していただきありがとうございました。わたしたちは本を読むのがだいすきです。私も休み時間に図書室に行って、いろいろなジャンルの本を読むのを楽しみにしています。

たくさんの本をいただき、とてもうれしいです。これからいろいろな本を手に取って、みんなで楽しく読んでいきたいです。

本当にありがとうございました。

★令和7年度　贈呈式出席者★

●函館市立大森浜小学校	校長	田中佳丈
	児童会代表	岡嶋心玲
	教頭	細川真喜
	図書担当教諭	新沼誠子
●函館市立駒場小学校	校長	石川朋実
	児童会代表	松川愛梨
●木古内町立木古内小学校	校長	長谷川美栄子
	児童会代表	小平莉穂
●北斗市立大野中学校	校長	畑　大輔
	生徒会代表	髙橋穂花

教育局・教育委員会（贈呈校の推薦をいただく）

●函館市教育委員会	教育長	藤井壽夫
●北海道教育庁渡島教育局	局長	長居成好
北斗市教育委員会	教育長	川原弘成
木古内町教育委員会	教育長	西山啓二

●渡島教育局・石川博隆総務係長　●木古内町教育委員会・中村光希主査
●函館市教育委員会・八重樫泉主査　坂本憲弘主任主事

お礼の言葉＜高橋穂花・大野中学校＞

図書室に読みたい本をいただき嬉しく思います。学校では、読書の時間を設けて読む習慣を身に付けて、読書で得た知識を生かして生徒皆んで、社会貢献活動に役立てて行きたいです。

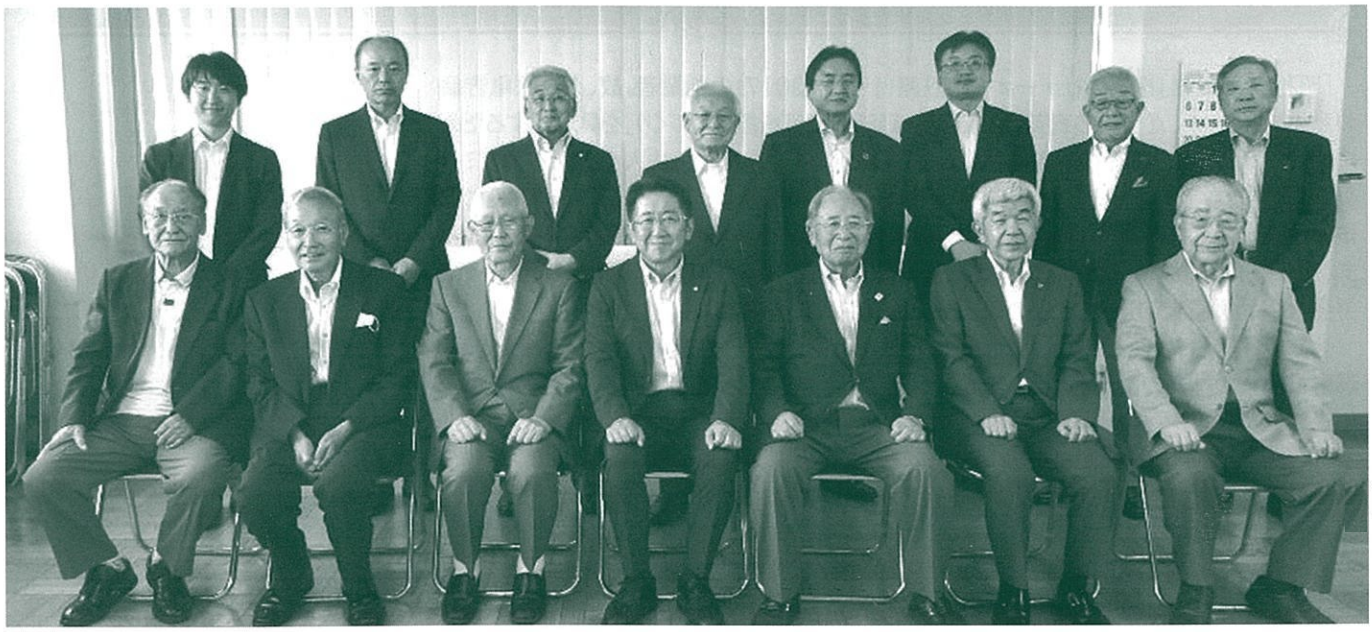


書籍・書架一式贈呈は、2015・平成27年にスタートし、
11年間で（下記の44校）に寄贈いたしました

桔梗小学校	七重小学校	湯川中学校	浜分小学校
桔梗中学校	五稜郭中学校	本通中学校	大中山中学校
藤城小学校	巴中学校	浜分中学校	上湯川小学校
北美原小学校	青柳中学校	大沼岳陽学校	北日吉小学校
亀田中学校	久根別小学校	旭岡小学校	石別中学校
谷川小学校	峠下小学校	戸井学園	大沼岳陽鈴蘭谷
軍川小学校	港中学校	石別小学校	深堀小学校
日吉ヶ丘小学校	北中学校	七飯中学校	鱒川中学校
赤川中学校	萩野小学校	亀田小学校	萩野小学校②
上磯小学校	大中山小学校	戸倉中学校	木古内中学校
大森浜小学校	駒場小学校	大野中学校	木古内小学校

＜新／第14期＞設立45年・役員定時総会

＜令和7年7月18日＞函館新聞社ビル3階会議室に於いて



審議事項　（1号～ 5号議案）全議案承認
新任（業務執行理事　小笠原健仁）承認



役員16名の参加で全議案決議



発言する野又肇理事

一般財団法人　小笠原アカデミー教育振興財団・役員

＜令和7年7月18日・現在＞

理事長（代表理事）　小笠原勇人

理　事	小笠原　勇　人	評議員	小笠原　康　正
〃	小笠原　健　仁	〃	齊　藤　良　昭
〃	小笠原　　弘	〃	庄　司　澄　枝
〃	野　又　　肇	〃	羽根田　茂　信
〃	山　本　真　也	〃	野　村　辰　男
〃	平　野　利　明	〃	成　田　　豊
〃	竹　内　行　雄	〃	野　口　博　敏
監　事	齊　藤　一　雄	〃	中　村　昌　弘
〃	村　田　亮　二	〃	青　田　　基

＜事務局＞　事務局長・事業担当／平野利明　　会計担当／竹内行雄

令和7年度／助成金贈呈先・遺愛女子高等学校　吹奏楽局＜愛吹＞



第27回・全日本高等学校吹奏楽大会
in 横浜　北海道代表出場

主催：日本高等学校吹奏楽連盟

令和7年11月8日・9日・横浜みなとみらい大ホールにて開催
大会出場遠征費用として助成金・R7年10月22日
＜出場部員・88名参加＞

遺愛学院・遺愛女子高等学校
校長・井本晴雄　　顧問・高久健一

吹奏楽局（昭和43年発足）

吹奏楽局代表	局　長	越　田　優　羽
	副局長	三　浦　　花

一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団

「昭和55年設立」株式会社テーオー小笠原（1950～2017）の創業者。故、小笠原亀吉翁の意思でもあった、青少年の育英「地域社会・経済の発展を担う人づくり」を具現化するために、小笠原亀吉翁の遺産の一部を基金として後継者が、「一般財団法人小笠原アカデミー奨学財団」を設立いたしました。初代理事長は（故、小笠原金悦）、次の二代目理事長には（故、小笠原孝・令和6年3月19日逝去）です。三代目として小笠原勇人が継承することとなりました。財団は今日までに数多くの学生に奨学金を貸与して参りました。利用された数多くの学生たちは、教育者の道や、社会の第一線で活躍されております。

その後、基金の増額として、小笠原孝夫人（故、小笠原幸子）の遺産の一部と、小笠原孝理事長個人の株式の寄贈等によって更なる充実を計りました。平成24年には一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団に名称を改め、功績者の二代目小笠原孝理事長は、新たに教育機関などへの助成金制度を加えて、次のような育英貢献事業に取り組みました。

優秀な成績をもって、北海道を代表・全国大会出場の遠征費用や、書籍・書架一式贈呈・学校の教育資材寄贈などです。三代目理事長として引き続き教育振興に努めて参ります。



理事長（代表理事）
小笠原勇人

令和7年度10月現在・奨学生総数205名となる　助成金は43団体に贈呈／書籍・書架一式も44校となる

諸君の可能性を咲かせよう

向学心に燃える若人へ奨学金
奨学生の募集要項

【 資 格 】
- 原則として、道南地方の住民の子女であること。
- 大学、又は短大、専門学校・専修学校、高等学校に在学する者。
- 向学心に富み、かつ修業の見込みがあること。
- 経済的な理由により、就学困難な事情があること。
- 将来、国家及び社会に役立つと認められる者。

【 貸与額（月額） 】

・大学、又は大学院	25,000円
・専門学校又は専修学校、短大	20,000円
・高等学校	15,000円
※奨学金は原則として、6ヶ月分を一括貸与する。	（年2回）

【 返 還 】
- 奨学金の貸与が終了した日から1年を経過した日以後、貸与を受けた年数の3倍の期間内に返還すること。
- 返還方法は年賦、半年賦、月賦、その他の方法による。

【 申込方法 】
- 所定の用紙（在学校又は財団事務局に申請）に必要事項を記載し、必要とされる書類を添付の上、在学校を通じて申し込む。

申込期間　例年：4月1日～5月末日まで

教育の振興機関に助成金
教育機関等への助成要項

【 助成対象 】
- 学校等の教育機関及び地域社会の教育の振興に関わる機関。

【 助成額 】
- 助成額は1案件につき事業費の50%とし、上限を20万円とする。

【 申請書 】
- 申請書の様式は特に問わないが、下記事項を明記のこと。

1、事業名称・代表者名
2、事業及び費用の概要・収支計画書
3、行政からの推薦書（函館市教育委員会・渡島教育局）

〈例1〉
○○小学校□□部　全国大会（東京）へ出場が決定しましたので、旅費などの一部を助成していただきたく。

〈例2〉
○○中学校□□研究大会開催における費用の一部を助成していただきたく。

〈例3〉
○○教育団体の□□教材の充実を計るための費用の一部を助成していただきたく。

申請は随時受付（但し、理事会の承認後の決定となります。）

■詳しいお問い合わせは、当財団事務局（連絡先）へ

〒040-0061 函館市海岸町9-18　電話 0138-84-5396